

1. 「ことばの力」充実事業 2年間の取り組み

1 24年度の目標

<ul style="list-style-type: none"> ・文字文化に触れることが少なくなっている生徒に対して、「ことば」を通じた指導を通じて、言語能力の育成を図る。 ・文章を的確に読む能力やまとめる能力の育成。過去の名文に触れて、味わうことや暗唱していくことで言語能力の育成を図る。
--

2 24年度の実施内容

(1) 24年度実施した教科（公開授業、授業研究会）、学校行事等の取組について

実施時期	内 容	参加人数	
		校外	校内
8月	学校訪問 京都府立北陵高等学校（国語） 桃山高等学校（英語） 鳥羽高等学校（数学） 山城高等学校（理科） 西乙訓高等学校（地理歴史）	10名	1年次 教員5名
9月	授業アンケート・学習活動アンケート 現文/古典/現社/数学Ⅰ/数学A/物理/生物/体育/保健/音楽Ⅰ/美術Ⅰ/書道Ⅰ/英語α/英語β/家庭/情報Aについて、各20項目 1～5の5段階評価		1年次生全員
10月	ポートフォリオ発表会 論理的思考力の錬成の開始		1年次生全員
	研究授業 国語総合		国語教員全員
	講演会「論理の通った文章について」水王舎出口氏講演	1名	1年次生全員
1月	「小論文ガイダンス」第一学習社 講演	2名	1年次生全員
	百人一首カルタ会（予選と本戦）と書道パフォーマンス		
3月	小論文模試の実施		1年次生全員

(2) 教科（公開授業、授業研究会）、学校行事等の企画・運営で工夫したこと

<ul style="list-style-type: none"> ・多くの教科が関わるができるように、各教科との連携をとった。 ・1年次生徒全員を対象とした。

3 24年度の目標の達成状況と課題

- ・「文章を的確に読む能力やまとめる能力」の重要性は、理解させることができたのではないかと。論理的に文章を解析し、書く練習をさせたが、能力の向上には時間がかかると思われるので、今後も取り組みを続けることとする。
- ・講演会や発表会は多く企画でき、生徒も積極的に参加できた。

4 25年度の目標

1. 現在実施している「論理力」の育成における確認テストの進捗状況をチェックする
2. 授業でこまめにアンケートを実施し、生徒の文章理解や表現力の推移をチェックする
3. 小論文を年に2回程度書くことにより、文章力の比較を行う

5 25年度の実施内容

1. 論理的な思考力を培うための基礎力の育成
2. 文章を理解し、要点を押さえ、自分の言葉でまとめる能力の育成
3. 一つのまとまった文章を構成し、論述する力の育成

(1) 25年度実施した教科（公開授業、授業研究会）、学校行事等の取組について

実施 時期	内容	参加人数	
		校外	校内
4月	論理的思考力の錬成の開始		1年次生全員
6月	研究授業「化学基礎」 化学と人間生活に関する探究活動		2年次文系
9月	研究授業「数学Ⅱ」 既習分野の定理等を証明し、発表することで各科目（数学ⅠAⅡB）を体系的に学習する。		2年次理系
	授業アンケート・学習活動アンケート 現文/古典/現社/数学Ⅰ/数学A/物理/生物/体育/保健/音楽Ⅰ/美術Ⅰ/書道Ⅰ/英語α/英語β/家庭/情報A 各20項目 1～5の5段階評価		1年次・2年生徒全員
10月	ポートフォリオ発表会		
	講演会「論理の通った文章について」水王舎出口氏講演	1名	1年次生全員

	論理的思考力の錬成の終了		2年次生全員
11月	<p>研究授業</p> <p>「国語総合」 抽象的見解とその具体例からなる文章展開を学び、問題提起から発展的考察への関係を読解する。</p> <p>「現代社会」 授業で既習の日本の財政問題と社会保障制度の課題を併せたテーマとして、考えて意見をまとめ、発表をさせる。</p> <p>「保健」 飲酒にまつわる健康問題について、生徒各個人が作成した課題研究レポートをもとに発表を行う。</p> <p>「英語」 コミュニケーション力を育成するとともに事実や意見などを考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を養う。</p> <p>「家庭基礎」 住居の機能、住居と地域社会とのかかわりなどに必要な基礎的・基本的な知識技術を習得させ、安全で環境に配慮した住生活を営むことができるようにする。</p>	2名	1年次生全員
12月	<p>講演会「ユメタン学習法」 木村達哉 先生</p> <p>小論文模試の実施</p>	1名	1年次生全員
1月	百人一首カルタ会（予選と本戦）と書道パフォーマンス		2年次生全員
			1年次生全員

(2) 教科（公開授業、授業研究会）、学校行事等の企画・運営で工夫したこと

- ・ほとんどの教科が研究授業を実施することができた。。
- ・1年次生徒全員、2年次生徒の約半数を対象にすることができた。

6 25年度の目標の達成状況と課題

1. 論理的思考力の錬成については、2年次生が約1年をかけて終了した。後のページでそのアンケート結果を提示するが、生徒の力の定着には指導方法の見直しと補助教材の活用が必要であることがわかった。
2. 各教科の研究授業では、どの教科においても十分に教材研究ができていた。また、生徒の取り組みも積極的で、前向きな姿勢が感じられた。